

「ロータリー精神を伝えてゆこう」

ガバナーとして最後のメッセージをお伝え申し上げます。

今年度一年間皆様の温かい御支援と御協力をいただきながら誇り高き第 2790 地区ガバナーを務めることができましたことに衷心より感謝を申し上げます。

一年経って思うことは、この地区は良い地区だなあということです。もちろんそれぞれのクラブにはそれぞれの悩みがあります。ロータリーの求めるものは深遠ですから、その悩みは深い場合もあります。しかし、総じて、ロータリーを理解しようという意欲と行動力に溢れ、ロータリーを心から愛する人々の多い地区です。この地区は、日本のロータリーを正しい方向に牽引してゆく底力を持った地区だという確信をもつことが出来るようになった一年でした。

今、RI では RI 会長の年次テーマをやめるべきではないかという議論があるようです。RI がクラブに対して長期計画を打ち出そうと説得している一方で、年度毎に変わる RI 会長が自由にテーマを打ち出すのは整合性が取れないというのでしょうか。

私はレイ・クリングスミス RI 会長の打ち出したテーマ、「Building Communities, Bridging Continents」の「壮大さ」に面食らったまま一年を終えようとしています。このテーマでクリングスミスさんはどのように一年限定のリーダーシップを発揮してゆくのだろうと見守り続けた一年でした。

「地域を育む—その根底にあるのはクラブの親睦。大陸をつなぐ—その根底にあるのもロータリアン同士の親睦。だからこのテーマは『親睦に始まって親睦に終わるロータリーの真髄』を語っているのだ。」こう規定したのは深川純一 PDG です。とても温かい見方です。私も基本的にはこの立場をとりました。

私は地区のテーマとして 「スタイル（様式）を磨こう」 を掲げ、このテーマに沿ってクラブの自治を訴えました。テーマが分かりやすかったからだと思いますが、「私の思い」を皆さんは理解して下さったように感じています。

こうして考えますと、RI 会長とガバナーを結び付ける太い絆は RI 会長テーマ、そして、ガバナーとクラブを結び付ける絆は地区テーマであって、RI 会長やガバナーから年次テーマを奪ってしまうとその年度のリーダーシップを発揮しづらくなるように思えます。

「長期計画」の名のもとに年度の個性を薄めてゆく現在の方向に私は危機感を募らせています。

ロータリーの役職は一部を除いて一年任期となっています。しかしロータリー組織は続いてゆきます。外からクラブを眺めている人々にとってはその長が変わろうともロータリーであることに変わりはありません。従って、常に筋の通ったロータリー精

神が流れていることが大切です。ロータリーは「任期一年制」の長所を最大限に生かしながら展開したが故に 100 年以上もの間多くの人々の共感を得て拡大してきました。皆様には「長期計画」が「年度」から個性を奪いクラブが活力を失うことのないよう次の会長・幹事さんに“変わらぬロータリー精神”を伝えてゆくという強い志を持っていただきたいと思います。

「友情を続ける条件は、その人の中に一点秀でている所があってそれを見つける眼力がお互いになればそれだけで充分だ」といいます。

この一年間、果たして私は地区内の皆様とどれ程友情を育めたのでしょうか。多くの皆様は私の中のどこかに秀でた部分があるからガバナーになったに違いない…と考えてあたたかい目で接し、その一点を探り出そうとして下さいました。それに対して私はどれだけお応えできたのでしょうか。

皆様お一人お一人との接点があまりに小さく、しかも殆どの会員が実に魅力的な方々であった為に個人個人との関係は散漫になりがちでした。お一人お一人ともっと意見の交流を深めたかった…と思います。この一年はどちらかと言えば私の意見を聞いていただく一方でした。これからは皆様の意見を聞かせていただく行脚の必要を感じています。どうか長いお付き合いをさせて下さい。

今年度、例年にも増して多くの書に親しみました。酒を断ったこともあって、灯火の下で書に親しむ時間が増し、私自身、一年前より少し問題の整理が進んだと思っています。アイヌには「富を貯めるとは各個人の蔵の中に物を貯めるのではなく、大地を豊饒にし、自然を豊かにして、自然の中に富を貯めることである」という考え方があります。私はこの一年、地区内では誰よりも多くの出会いと情報の交流をさせて頂いたことは間違いないのですから、私の中に蓄積された情報を整理して地区の大地に戻すことが今後の自分の責務なのだと思っています。

万感の想いを込めて、一年間の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

2011 年 6 月 30 日

国際ロータリー第 2790 地区
2010-2011 年度ガバナー

織田 吉郎